



## 横浜銀行 ロンドン駐在員事務所

週間トピックス(2018.1.19)

### 英建設大手の破綻

- 英建設大手カリリオンは1月15日、業績低迷により、約16億ポンド(2,440億円)の負債を抱え、経営破綻しました。従業員は世界で約4万3,000人、うち英国内には約2万人で、英国企業の破綻としては、ここ数年で最大級の規模です。
- ロンドンでは依然、建設現場があちこちに見られ、建設部門の景況感を示す「建設業購買担当者景気指数(PMI)」は、12月も52.2と好不況の分かれ目となる50を超えています。
- 建設大手の経営破綻は意外にも感じられますが、カリリオンは英政府の公共事業やサービス受託を数多く手掛けており、政府の財政状況とも無関係ではないのかもしれませんが。

#### 1. 英建設2位のカリリオン

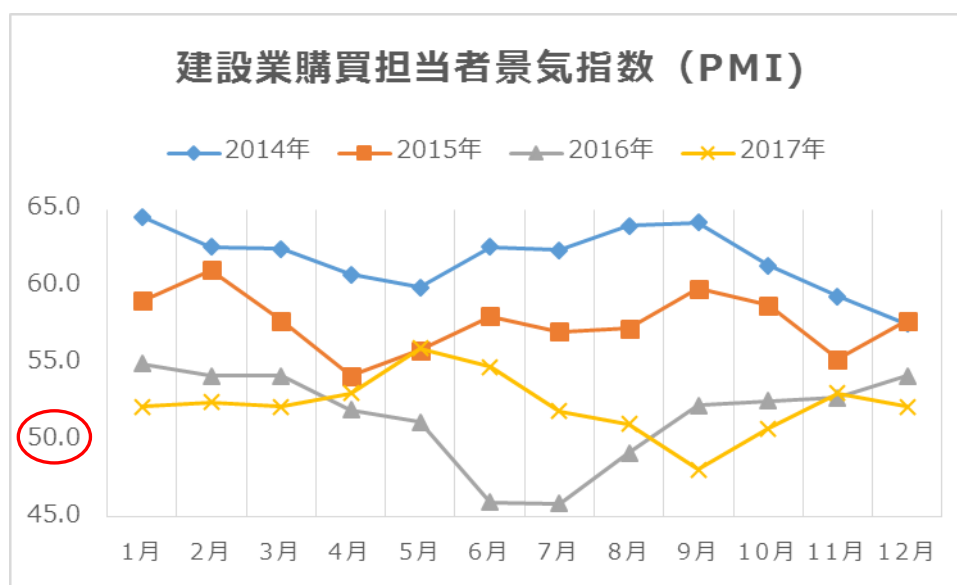
- 英カリリオンは、売上高約52億ポンド(7,930億円)、ロンドン証券取引所に上場する英国第2位の規模の建設会社です。
- 病院や道路の建設を手掛けるほか、刑務所の保守管理や学校給食の受託運営などの契約が約450件あるといわれています。また、高速鉄道「ハイスピード2(HS2)」の一部区間も受注していました。
- カリリオンの株価は、この1年で90%以上下落し、業績見通しも度々下方修正していたことから信用不安は囁かれてはいたものの、一部には「大きすぎて潰せない」、「英政府が救済するのではないか」との声もありました。
- カリリオンとその協力会社、サプライヤーなどが運営する公共サービスは、政府が運営継続に必要な資金を提供し混乱を回避するとし、イングランド銀行副総裁も「大きな懸念はしていない」と述べています。

【ロンドンのあちこちで見られる建築現場】



## 2. 建設業購買担当者景気指数 (PMI)

- 建設業購買担当者景気指数 (PMI) とは、民間調査会社のマークイット社が集計する景気指標で、建設業の購買担当者のアンケートを数値化した指標です。50が分岐点で、50を上回れば景況感が良く、下回れば景況感が悪いとされます。アンケート調査なので、現場の声が反映される点が特徴です。
- 過去4年間の推移を見てみますと、分岐点の50を下回ったのは、2016年は6月、7月、8月の3回、2017年では9月の1回のみです。若干の低下傾向はありますが、ほとんどの月で50を上回っています。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2014年	64.6	62.6	62.5	60.8	60.0	62.6	62.4	64.0	64.2	61.4	59.4	57.6
2015年	59.1	61.1	57.8	54.2	55.9	58.1	57.1	57.3	59.9	58.8	55.3	57.8
2016年	55.0	54.2	54.2	52.0	51.2	46.0	45.9	49.2	52.3	52.6	52.8	54.2
2017年	52.2	52.5	52.2	53.1	56.0	54.8	51.9	51.1	48.1	50.8	53.1	52.2

(マークイット社資料より作成)

## 3. まとめ

- 政府の厳しい財政事情は各国共通の課題で、英国政府は2011年に公共部門の資産コストを2016年までに最大20%削減することを目指した「建設戦略」を発表し、公共事業を受託する事業者は年々コスト削減が厳しく求められていたことが伺えます。
- サッチャー政権以降の英国で「小さな政府」への取り組みの中から、公共サービスの提供に民間の資金やノウハウを活用しようとする考え方として生まれたPFIですが、今回のカリリオンの経営破綻は、PFIのあり方にも一石を投じそうです。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客さま自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。